

山梨市観光施設事業経営戦略

団 体 名 : 山梨市

事 業 名 : 観光施設事業(その他観光施設)

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 3 年度 ~ 令和 12 年度

※複数の施設を有する事業にあっては、施設ごとの状況が分かるよう記載すること。

1. 事業概要

(1) 事業形態

法適(全部適用・一部適用) 非 適 の 区 分	※地方公営企業法の適用を予定している場合は予定年月日を記載すること。 法非適用	事 業 開 始 年 度	平成7年度(どちらも)
事 業 の 種 類	観光施設事業	施 設 名	花かげの湯・鼓川温泉
職 員 数	各6人 計12人		
事 業 の 内 容	入浴施設の運営		
民 間 活 用 の 状 況	ア 民間委託	なし	
	イ 指定管理者制度	導入に向けた検討を進めていく	
	ウ PPP・PFI	なし	

(2) 料金形態

料金の概要・考え方	花かげの湯、鼓川温泉共通の料金設定 1日券:市内:大人730円 小中学生:0円 1日券:市外:大人1030円 小中学生510円 3時間:市内:大人300円 小中学生:0円 3時間:市外:大人510円 小中学生300円	
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	令和2年4月1日 (市内小中学生無料に改定)	

(3) 現在の経営状況

年間利用状況 ※単位を明記すること ※過去3年度分を記載	H29	134,885 人	H30	135,612 人	R1	121,375 人
収益的収支比率 ※過去3年度分を記載	H29	100%	H30	100%	R1	100%
経費回収率 ※過去3年度分を記載	H29	51%	H30	50%	R1	51%
他会計補助金比率 ※過去3年度分を記載	H29	%	H30	%	R1	%
有形固定資産減価償却率 ※過去3年度分を記載	H29	%	H30	%	R1	%
企業債残高対料金収入比率 ※過去3年度分を記載	H29	%	H30	%	R1	%

【上記の収益、資産等の状況等を踏まえた現在の経営状況の分析】

年々利用者が減少している状況である。市民の利用者が約8割を占めており、今後は観光客等の市外利用者の促進を図る必要があると考えている。収益については、一般会計繰入金によって不足分を補てんしている。

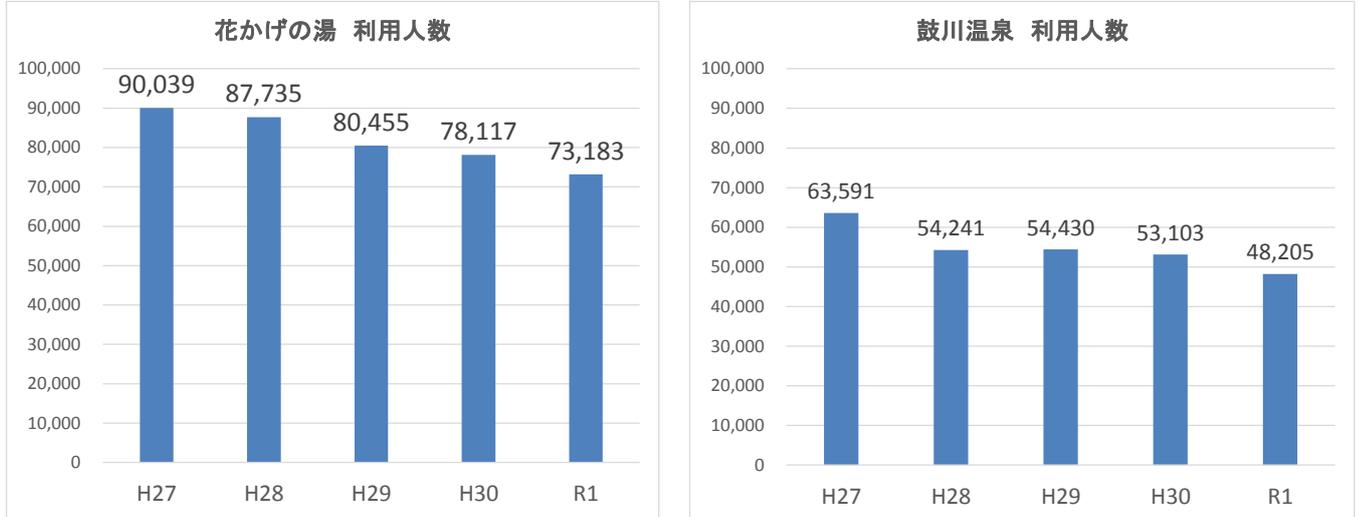
2. 将来の事業環境

(1) 利用人数の見通し

※利用人数の見通しについて、図表などを適宜用いながら、予測の方法(考え方)等も含め、分かりやすく記載すること。必要に応じて過去の推移についても記載すること。

過去5年間の利用者人数の記録から、「花かげの湯」「鼓川温泉」どちらも年々減少傾向にある。平成27年度と令和元年度を比較すると、「花かげの湯」は90,039人→73,183人(約19%減)、「鼓川温泉」は63,591人→48,205人(約24%減)となっている。登山や紅葉等の観光シーズンには観光客が増加するが、その時期を除くと利用者のほとんどが山梨市民であり、人口減少と高齢化の影響が大きいと思われる。このため、見通しについては緩やかな減少傾向にあると考えられる。

また、特殊な事例であるが、令和2年3月からコロナウイルスの拡大防止策により施設の閉館、利用人数の制限、営業時間の短縮等行っている。こうした社会情勢から、数年に渡って利用人数の低迷が予想される。

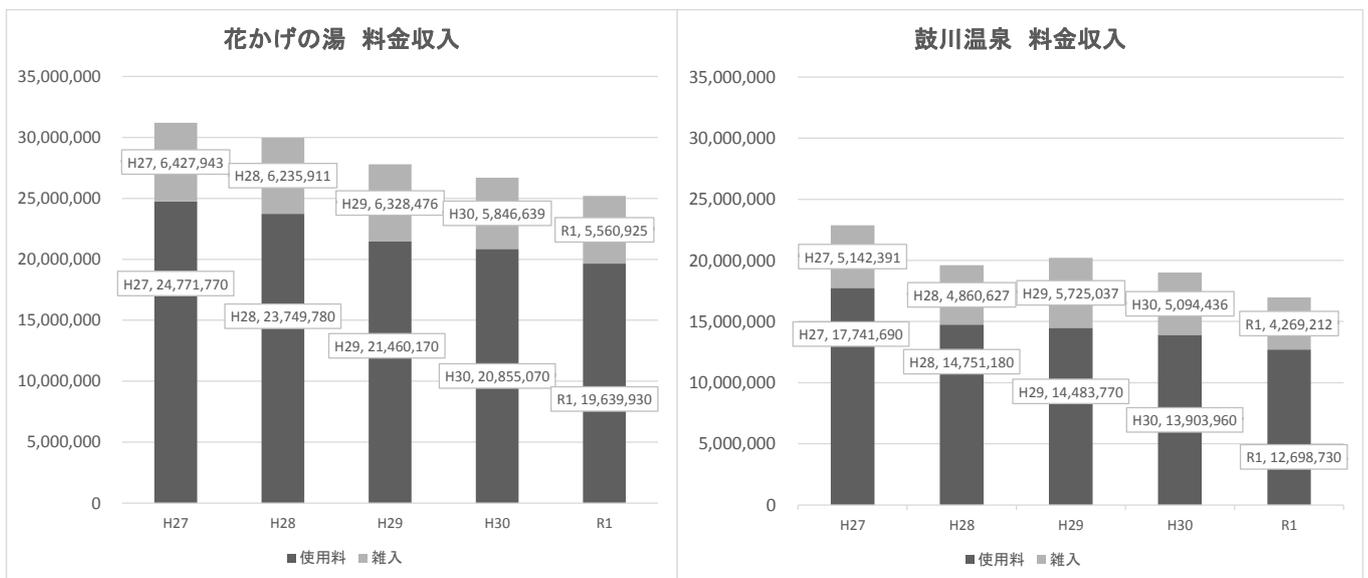


(2) 料金収入の見通し

※料金収入の見通しについて、図表などを適宜用いながら、予測の方法(考え方)等も含め、分かりやすく記載すること。必要に応じて過去の推移についても記載すること。

過去5年間の料金収入の記録から、「花かげの湯」「鼓川温泉」どちらも減少傾向にある。平成27年度と令和元年度を比較すると、「花かげの湯」は32,375,358円→26,738,632円(約18%減)、「鼓川温泉」は24,100,059円→18,161,573円(約25%減)となっている。利用者人数の減少や、令和元年度の料金改定で市内小中学生の料金が無料になったことなどから、今後も緩やかに減少していくものと予想される。

また、特殊な事例であるが、令和2年3月からコロナウイルスの拡大防止策により施設の閉館、利用人数の制限、営業時間の短縮等行っている。こうした社会情勢から、数年に渡って利用人数の低迷が予想される。



(3) 施設の見通し

※施設、設備等の老朽化度合、今後の更新見通しについて、図表などを適宜用いながら分かりやすく記載すること。

両施設ともに建設から20年以上経過しており、当時の設備を修繕しながら、または必要に応じて新規設備に切り替えている状態。修繕箇所も多岐に渡り、これを単年度で一括修繕を行うのは予算等の問題もあって不可能である。また、一定周期で源泉ポンプの引き上げ・オーバーホールを行っているが、これも経年劣化等によって時期が早まることもある。修繕の優先順位については施設職員と協議して決めており、現場の状況や予算を見て検討する。

(4) 組織の見通し

※定員の管理計画等を踏まえた将来の職員数の見通し等について、図表などを適宜用いながら、分かりやすく記載すること。

各6人の職員と、開店準備のためにシルバー人材センターから派遣した各1人の計7人体制であり、それを維持していく見通しである。ただし、花かけの湯については職員7人体制だった時期があり、現場の状況を考慮して検討する。

3. 経営の基本方針

※将来の事業環境等を踏まえ、事業を継続する上での経営理念、基本方針等について記載すること。また、上位計画や他の一般会計における計画との関連性、位置付けについても記載すること。

当初の設置目的に基づき、山梨市民の福利厚生・健康増進を1つ目の方針とする。しかし、利用者の高齢化や人口減から、今後の施設収入減が予想されるため、地域住民のみならず登山客や観光客の利用増加を図ることを2つ目の方針とする。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	※目標設定をするにあたり、複数の推計パターン(高位・中位・低位)で試算を行うこと。 ※下記参照
-----	--

※計画期間内に実施する主な投資の内容(施設名、時期、金額など)について、図表なども適宜用いながら、分かりやすく記載すること。
※収支計画の策定に当たって反映した取組について、内容(対象施設、時期、金額など)を記載すること。

【必須】(金額は1か所辺り)

- ・源泉水中ポンプの入れ替え：花かげはR4年度(4年毎)・鼓川はR4年度予定(5年毎)：約460万円
- ・入れ替え後のポンプのオーバーホール：上記入れ替えの翌年：約300万円
- ・ろ材交換、配管洗浄(レジオネラ対策)：花かげはR4年度・鼓川はR3年度(5年毎)：約180万円

【設備修繕】

- ・機器の故障や部品の破損対応のため毎年各50万円予算計上している。

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	※目標設定をするにあたり、複数の推計パターン(高位・中位・低位)で試算を行うこと。 ※下記参照
-----	--

※財源(料金、企業債、繰入金、国庫補助等)の積算の考え方等について記載すること。
※また、収支計画の策定に当たって反映した財源確保の取組について、内容(対象施設、時期、金額など)を記載すること。

利用者の減少傾向に加え、老人福祉政策による割引、市内の小人料金の減免など、収益の減少が見込まれるため、料金を上げざるを得ない状況である。利用者の約8割が山梨市民であることから、その料金を改定しなければ効果が薄い。市民料金を現在の3時間300円から400円、1日730円から800円の価格に上げた場合、仮に元年度の利用者状況で計算すると、収入は概算で約400万円ほどプラスとなる見込み。また、市外者の料金も併せて引き上げた場合(3時間510円→600円、1日1030円→1200円)は、上記の金額にさらに約200万円上乘せされる。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

※投資以外の経費(委託料、管理運営費、人件費など)の積算の考え方等について記載すること。
※収支計画の策定に当たって反映した経費削減の取組(包括的民間委託、指定管理者制度の導入等の取組も含む。)について、内容(対象施設、時期、金額など)を記載すること。

消防設備やレジオネラ菌対策の設備点検など、法定点検や温泉運営上必要不可欠なものがほとんどのため、委託料については現在と同程度の経費を計上していく見通しである。両施設や他の公共施設でも行う業務については、包括的に委託することによって経費の削減を図る。

また、消耗品についても、シャンプーや消毒薬剤等の大量に利用が見込まれるものについては、業者との単価契約などによって経費を削減する。

その他、指定管理者制度の導入等により、民間事業者のノウハウを活用して収益の増加に繋がるようにする。

(3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。
また、(1)において、純損益(法適用)又は実質収支(法非適用)が計画期間の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュールや必要に応じて経費回収率等の指標に係る目標値を記載すること。

① 今後の投資についての考え方・検討状況

民間活用	指定管理者制度導入に向け、検討を進めていく
投資の適正化	特記無し
その他の取組	特記無し

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料金	料金の値上げについて、有識者会議での議題として検討する
稼働率・利用者数	利用者の8割が市民のため、観光客等の市外の利用者増を目指す
企業債	-
繰入金	運営費や料金の見直しによって、一般会計の繰入額を抑制していく
資産の有効活用等による収入増加の取組	特記無し
その他の取組	特記無し

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	可能な限り包括的な業務委託を行い、経費の削減を図る
管理運営費	大量に利用する消耗品は、単価契約等により支出を抑えるようにする
職員給与費	営業時間の見直しや作業の効率化等によって見直しを図る
その他の取組	特記無し

5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	旧牧丘町時代に住民の福利厚生を図るという目的で設置され、現在でも公営住宅の住民が日常的に利用していたり、市民間交流の場として活用されていたりする施設である。また、牧丘・三富地域の観光名所から立ち寄り、登山の帰りに利用しやすい場所にあり、秋の行楽シーズンに観光バスが立ち寄るなど集客施設としても重要なものである。
公営企業として実施する必要性	現在は一般会計繰入金によって不足分を補てんしており、改善を図らなければ施設自体の存続が難しく、結果市民の福利厚生という設置目的を果たせなくなる。このため、料金の値上げ、指定管理等の民間活用を取り入れ、将来にわたりサービスが存続できるようにする。

6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、改定等に関する事項	毎年度進捗状況の確認を行うこととする。ただし、社会情勢の変化や大規模修繕が必要な状態になった場合、そのタイミングで経営戦略を見直すこととする。また、山梨市公共施設マネジメント計画に沿って、2030年までの約10年間の中で、利用者の動向や設備の劣化状況を基に施設の存廃及び維持管理の方針を検討していく。
---------------------	--

投資・財政計画 (収支計画)

(単位:千円, %)

年 度	平成30年度 (決算)	令和元年度 (決算)	本年度 (見込み)	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
区 分												
収支再差引 (E)+(I) (J)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
積立金 (K)	0											
前年度からの繰越金 (L)	0											
前年度繰上充用金 (M)	0											
形式収支 (J)-(K)+(L)-(M) (N)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
翌年度へ繰り越すべき財源 (O)	0											
実質収支黒字 (P)	0											
(N)-(O) 赤字 (Q)	0											
赤字比率 ($\frac{(Q)}{(B)-(C)} \times 100$)	0											
収益的収支比率 ($\frac{(A)}{(D)+(H)} \times 100$)	0											
地方財政法施行令第16条第1項により算定した資金の不足額 (R)	0											
営業収益－受託工事収益 (B)-(C) (S)	45,810	42,166	15,500	26,000	32,000	44,500	44,500	44,500	41,500	41,500	41,500	41,500
地方財政法による資金不足の比率 ((R)/(S)×100)	0											
健全化法施行令第16条により算定した資金の不足額 (T)	0											
健全化法施行規則第6条に規定する解消可能資金不足額 (U)	0											
健全化法施行令第17条により算定した事業の規模 (V)	0											
健全化法第22条により算定した資金不足比率 ((T)/(V)×100)	0											
他会計借入金残高 (W)	0											
地方債残高 (X)	0											

○他会計繰入金

(単位:千円)

年 度	平成30年度 (決算)	令和元年度 (決算)	本年度									
区 分												
収益的収支分	42,149	37,010	60,262	48,700	51,200	38,700	33,700	33,700	43,200	41,700	36,700	36,700
うち基準内繰入金	0	0										
うち基準外繰入金	42,149	37,010	60,262	48,700	51,200	38,700	33,700	33,700	43,200	41,700	36,700	36,700
資本的収支分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち基準内繰入金	0	0										
うち基準外繰入金	0	0										
合 計	42,149	37,010	60,262	48,700	51,200	38,700	33,700	33,700	43,200	41,700	36,700	36,700